

いじめから私を救ってくれた命の恩人達

学校法人大阪初芝学園初芝橋本中学校 二年

私は小学校の頃に二年近くいじめを受けていました。最初はからかっているのだろうと思っていました。でも、だんだんからかいが激しくなっていき、仲間からはずされて、その理由も分からず、担任の先生に話しました。

いじめはおさまらず、かえって、どんどん酷くなっていきました。私をいじめていた人達の一人が、私の持っている物と同じ筆箱を買って、グループの別の人が、「あんな、〇ちゃんの筆箱パクったでしょ。」と言いました。

その次の日学校に行くと、私の机の中に、ゴミが入れられていました。その時、私はこう思いました。「私はこれからもういじめを受けていけないといけないんだ。」と。それを見ていた、いじめをして来た人達は、笑って逃げていきました。今でもあの笑い声は忘れられません。それから数日経ったある日、私は学童に行き服を着替えようとまだスペースのある更衣場所へ行くと、「今、部屋が一杯だから、後で一人で着替えて。」と言われました。その時は学校でのいじめが少し落ち着いていて、みんなと仲良くなろうと、もう一度頑張りはじめた時期だったのに、学校だけでなく学童にもいじめが広がっていきました。本当につらかったし、悲しかったです。一時期は、この世界に生まれてきてよかったのか、とか死のうかとかとても悩んで時々学校の2階のベランダに立ってベランダから下を見たりしていました。その時それまで仲良くなかった同じクラスの子が、「そんなことしたらダメ、いじめなんか気にしないで、私達と遊ぼう。」と言ってくれました。その時、私は、安心したのか涙があふれました。それからその子のグループで遊ぶようになりました。しかしある時、その新しいグループの一人が私たちのグループから抜けていじめていた人達のグループへ行きました。その時私は、またいじめが始まるのかと思いました。でも、私と遊んでいた子達は、そこから起こりかけていた嫌な雰囲気を見捨てず、私と仲良く遊んでくれました。私はその時、ベランダから飛び降りて死ななくて良かったと思いました。私にとってあの子達は私の命の恩人だと思いました。しかし私はいじめを長い期間受けたせいで、初めて会った人や、親友などに嫌な思いをさせてないかな、などと、深く考えてしまうようになり、自分がつらい時も、みんなに頼られている自分がしっかりしないといけないと思って無理やり笑顔を作ったりしています。本当は何も考えずにそのまんまの自分で居てたいけど、嫌な思いをさせてないか、考えてしまって、学校でも、人の前で素を出せなくて、こんなことをするのはとても疲れるのですが、これが今のところ一番自分を安心させられる方法なのかな、と思います。でも時々私を助けてくれた子達の言葉

を思い出して、いじめられた経験はいじめがなくなっても、その後の気持ちを暗くすることがあると現在実感しているところです。実際今は、友達関係には悪いことは起こってなくて大丈夫だと頭では思いますが、気持ちはまだ緊張が続いています。これからこんなことがあったら、頼れる友達や先生にいち早く相談できて、自分を傷つけないように頑張れる自分でいたいと思いました。